

東日本大震災アーカイブ宮城の取組

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました宮城県図書館の菊地と申します。

少し自己紹介しておきますと、今お話しいただいたとおりですが、二〇〇九年から危機対策課長という仕事をしておりました。この危機対策課長の役目というのは主に防災対策であったり、災害対応ですが、災害対応ばかりじゃなく、ちようど私が二〇〇九年に危機対策課長になったときの四月は北朝鮮のテポドンが飛んでくるという間際でございまして、そこから危機対策課長の仕事が始まり、二〇一一年の七月に危機対策課長から会計課長に変わりました。危機対策課の最後に震災という大きな経験をしました。

まず最初に、これをごらんいただきたいと思います。

仙台港に押し寄せた津波



（震災時の動画を上映）

菊
地

正

「冒頭にごらんいただきましたが、これは震災のとき、仙台の背後に県でつくった展示施設がございまして、その屋上にお客さんたちを避難させて、その際に職員が撮ったビデオです。これも今回ご紹介しますアーカイブの中に入っているものです。

この東日本大震災についておさらいしておきたいと思えます。

東日本大震災のおさらい 宮城県の状況

○東北地方太平洋沖地震

○平成23年3月11日14時46分

○M9.0、震度7、10mを超える津波

○犠牲者 約9600人

○避難者 ピーク時約32万人

○被害額 約9兆円

宮城県図書館

「東日本大震災」というふうに通称で言っていますが、「東北地方太平洋沖地震」というのが正式名称です。

次に地震の強さですが、ご承知のとおり、平成二三年の三月一日の一四時四六分に発生しました。この地震は非常に長い地震でした。東京でも揺れましたので皆さんもご経験なさっているかと思いますが、いつ止むのだろうというぐらい長く激しい地震でした。ちょうど県庁の私の部屋から見える外にドコモのビルがあつて、平べったいビルでしたが、それが倒れるのではないかと思うぐらい、弓がしなるようにすぐく揺れていた記憶があります。

気象庁で最初に発表したマグニチュードは七台で、最終的にはマグニチュード九・〇ということで、我々が今まで経験したことがない大きさ、強さの地震だったわけです。震度七とありますが、震度七というのは実は県の内陸部のほうで記録している震度です。沿岸部は津波でかなりやられましたけれども、震度は六強ぐらいの数字でした。いずれにしても震度七というのはとてもない揺れで、熊本も震度七ということで大変だったんだらうなと思っております。

次に、犠牲になられた方々が約九、六〇〇人。いまだに一、〇〇〇人以上の方々が行方不明ということになっております。この犠牲者の方々のほとんどは、震災関連死といわれるある程度の時間がたつてからお亡くなりになった方

を除いて、津波による犠牲です。この震災で直接的に地震で亡くなられたのは私の把握しているところでは子供さん一人。それはある町のショッピングモールにお母さんと買い物に行っていて、天井の配管が落ちて犠牲になったものです。

なぜ、直接に地震で亡くなった方が少なく済んだのかということですが、宮城県というのは昔からチリ地震津波があつたり、あと宮城県沖地震というのが昭和五三年六月に起きています。国のほうからも宮城県沖地震というのはある程度のサイクルで定期的に発生しており、また宮城県沖地震は来るよというふうに伝えられ続けてきました。そのようなことから、宮城県の場合には地震・津波に対する対策をかなり前からとってきておりました。実際に、この震災前においても、例えば公立の学校関係については使われていない部分を除いてはほとんど耐震化が済んでいましたし、地震が起きたときの物資輸送や避難・救援のための幹線道路を確保するということが、主だった道路・橋梁についても震災地震対策がかなり進んでおりました。

また、県民の意識としても、その宮城県沖地震というのはまた来るといことがかなり浸透していたものですから、マイホームも耐震性に目を向けながら皆さん建てられていた傾向がありました。ということもあって、ビルもそうですし、一般の住宅もそうなんですけど、完全に倒壊し

たというのはあまりなかったということが救いだつたのかなと思います。

一方で、津波の犠牲者がこれだけ多かったということについては、あのときにもっとこうしておけばとか、こうすればよかったのかなというのがいまだにどうしても頭の中から抜けません。津波対策については各地域でかなり避難訓練というのをやっていました。しかしながら、避難しない、あるいは海に近い自宅に戻る方なども多く、その辺がしっかりと周知徹底できていなかったという、そこはいまだに悔いが残っています。

被害額については、これは数え方がよくありますけれども、私どもとしては九兆円ぐらいというふうにつかんでおります。

こういった大震災というものを経験して、私たちはこの「東日本大震災アーカイブ宮城」を構築しました。名前が長いので、単に「アーカイブ」と言わせていただきます。

まず、このアーカイブをつくったという背景、目的は、自分たちの震災の経験を風化させない、きちんと後世に残すということですが、その経験をどう生かすかということこそがポイントです。将来にどう生かすかということの視点を持ってこのアーカイブをつくりました。つまり、防災対策とか防災教育とか、そういったものに生かしてもら

東日本大震災アーカイブ宮城

東日本大震災に関する記憶の風化を防ぐとともに、防災・減災対策や防災教育等に関する効果的な利活用を図るため、震災関係資料を収集しデジタル化し、Web上で公開するシステムの構築

平成25年度～平成26年度(平成27年3月完成)

事業費 約6億円
総務省被災地域記録デジタル化推進事業補助活用

平成27年6月公開
公開資料数 約31.7万件
収集資料数 約41.9万件

県関係分	市町村	その他(自衛隊・日赤等)
公開分 約5.9万件	約24.6万件	約1.2万件
収集分 約7.8万件	約32.3万件	約1.8万件

うということを目指してアーカイブをつくったということ
です。

平成二五年度から平成二六年度までの二年間をかけてつ
くっております。去年の三月にデータとしては完成してお
ります。

事業費ですけれども、約六億円かかっております。総務

省の補助金を活用させていただきました。その補助金が約二億円、残りの四億円については震災関係の特別交付金を財源としております。

平成二七年六月一日に、このアーカイブを公開しております。公開した資料数が、その時点で約三一万七〇〇〇件ございます。収集した資料が約四二万件ございます。その内訳というのが下にございますとおりです。県関係分、市町村、その他として自衛隊、日赤、あと社会福祉協議会とかボランティア関係の団体からご協力いただいたものが含まれております。私どものアーカイブというのは県内全域をカバーするというので、全市町村に参加・協力してもらっていますので、市町村のデータ量が非常に多くなっています。

この特色・特徴ですが、意義については先ほどお話ししたとおりです。

二つ目としては、県と県内全市町村が協力して、県全域をカバーしてつくったアーカイブというのは私どもが初めてです。津波で大きく被災したのは沿岸部だけですが、そこだけということではなく県全体を見ることによって見えてくるものがあるわけで、その辺を私ども県としては、全体がどう動くかということのをきちんとカバーしていきたいということで、全市町村に協力をいただきました。

特 色

- 震災の経験を後世に残し、防災に役立てる
- 県・県内全市町村の連携、協力で県全域をカバーした初めてのアーカイブ
- 2015.6.15公開
約41万件の資料収集、約31万件公開
- 県がまとめて権利処理(一部を除く)
利用規約同意の上でダウンロード・利用に際して
基本的に利用者が改めて権利処理する必要なし
- 写真や動画のみならず行政資料・掲示資料も収集
- 多様な検索ツール・・・・
指定した地図上のエリア内の資料を抽出
- 国立国会図書館の「ひなぎく」とも連携

三つ目は、資料数ですが、これは先ほどお話ししたとおりです。自治体のアーカイブとしては、収集数も公開数もかなり多いと思います。

四つ目は、権利処理です。市町村とか各団体さんからいろいろな写真・資料を提供してもらいますが、それを公開するということになりますとその権利関係が出てきます。

顔が写っていたりしますし、それから提供していただいた人の名前のこととか、いろんなことが出てきます。提供していただく際、公開・ダウンロードを前提条件にしているのですが、それについては当然のことながらきちんと権利許諾をもらっておかなくてははいけません。その権利許諾を市町村、各団体等に対してそれぞれ処理してから県に提供してくださいとなると、なかなかこれは皆さん大変なわけです。ということ、この権利許諾については県が全部一括でやりやすからとにかく写真・資料等を提供してくださいとお願ひして、できるだけ多く集めました。その許諾については、一部を除き県が委託業務で全部一括して承諾をいただいたということがあります。

したがって、県が一括で許諾を得ているので、このアーカイブからダウンロードして使うのは変更を除き基本的にフリーです。いろんなアーカイブがありますけれども、そのアーカイブによってはダウンロードしたらそれをどう使うかは個別に許諾をとってくださいという場合もあります。私どものアーカイブは公開をする、そしてそれをいろんな場所ですべて使う、使ってもらうことによって価値が出るものですから、それを使いやすくするというところで、ダウンロードしてのいろいろな利活用についても基本的にフリーにしています。ただ、原則として防災対策とか、そういうものに使っていたらいいということ、このことで同意をい

ただくようにはなっております。

五つ目の特徴としては、写真とか動画だけではなくて行政資料等も集めているということです。行政資料のほか避難所の、例えば避難所の日誌や避難所で掲示したチラシといったものもできる限り集めています。

六つ目は、多様な検索ツールの装備です。三二万件公開したわけですから、目的のデータにたどり着きやすくするために、いろいろな検索の方法を取り入れています。あとからご説明しますが、地図上で範囲をクリックして、そうするとその範囲の中のデータを読み出せるとか、そういった検索の仕方もできるようになっています。

あとは、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ、愛称「ひなぎく」といまして、この東日本大震災関係のアーカイブを束ねているサイトがあります。そこに連携させていますので、そこからうちのアーカイブも利用できるようになっていきます。ただこの「ひなぎく」も、それぞれの団体のアーカイブの集合体なので、私どものアーカイブのようにダウンロードフリーになっているものもあれば、権利許諾の手続きは個別にとらなければならないものもあるという、混成になっているところではあります。

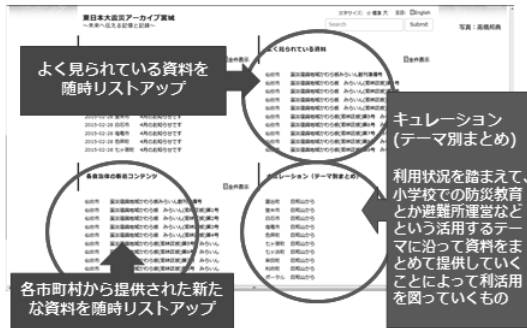
東日本大震災アーカイブ宮城を見ていきましょう



それでは、早速アーカイブを見ていきます。

これがトップページです。トップページは英語バージョンもつくったのですが、中身の写真とか動画についてはメタデータ等、英語にできていません。全体の英語バージョン作成については、件数が多いので相当の時間が必要と
思っています。

アーカイブのトップページ(つづき)



トップページは、上段に三枚の写真が並んでいますが、これは多く見られている写真が随時アップされています。また、よく見られている資料というのが多い順にリストアップされるようになっていたり、市町村からのいろいろなアップされた情報の紹介があったり、さらには、キュレーションというテーマ別の資料のパッケージを掲載するようになっていきます。このキュレーション機能は未完成です。先ほどもお話ししたよ

うにこのアーカイブは当初に約三〇万件を公開しましたが、それをどうぞお使いくださいと言っても利用者にとっては難しいので、検索機能の多様化とあわせて、テーマ設定して我々のほうでパッケージにしてご利用いただくものです。これはアーカイブ全体の利用状況を見ながらパッケージ化をしていきたいと思っています。

次に検索機能について紹介いたします。

アーカイブを探す・見る

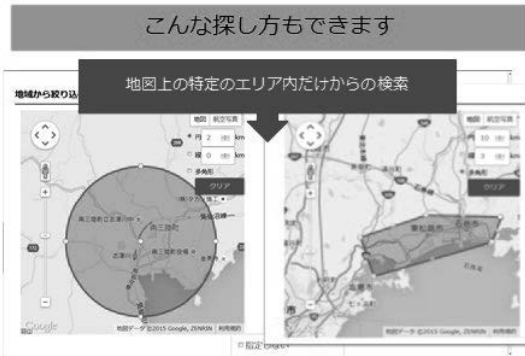


右上一般的なキーワードで検索です。それから、左側中段はカテゴリ検索とすることで写真とか映像とか、あとは音声とか、そういった形態別の検索。中央の下の宮城県地図は、市町村ごとのエリアで検索をかけるものです。左側のカテゴリ検索の下は、詳細項目検索です。タイトルとか作成者とか、公開者とか作成日とかで検索できるようにしています。



11

これは先ほどお話ししたように、地図上でエリアを特定していただいて、その中のデータを検索できるようにもしております。続きまして、冒頭に津波の映像をご覧いただきましたが、そのほかの収録資料を紹介いたします。



12

発災害直後の知事記者会見を再生してみます



これは三月一日の発災直後、知事が県民向けにラジオで放送したものです。

宮城県知事 県民の皆さん、宮城県知事の村井嘉浩です。

本日、午後二時四六分、三陸沖を震源とするマグニ

チュード七・九、震度七の地震が発生いたしました。この地震により県下全域で被害が発生しております。また、津波も沿岸部に及んでおります。

現在宮城県と全市町村では、地震発生と同時に災害対策本部を設置し、全力を挙げて対策に取り組んでおります。また、被災地支援のため、自衛隊の派遣を要請いたしました。

県では被災地の状況や正確に必要な情報をテレビ、ラジオやインターネットを通じ、皆様にお知らせしてまいります。ご近所でお年寄りや体の不自由な方がおられる場合には、地域で助け合い救助や避難誘導にご協力を切にお願い申し上げます。また強い余震や津波も続いておりますので、十分に注意してください。県民の皆様の生活の安全確保と災害復旧に全力を挙げてまいりますので、落ちついて行動されますよう、お願い申し上げます。

行政資料等も見てみましょう



2011/3/11
14:59 に
仙台管区气象台から
県に発せられた津波
情報のメールです

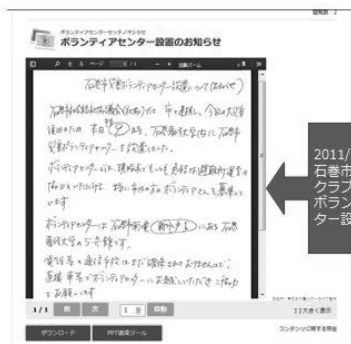
次は、行政資料です。これは三月一日の一四時五九分
です。地震が発生して二三分後に気象台から県の危機
対策課に送信されたメールの第一報です。マグニチュード
はまだ小さいし、津波も第一波なので二〇センチというレ
ベルのメールです。

次に、県の最初の災害対策本部会議の資料です。
これは全回数収録してあります。また、各市町村の災害
対策本部会議資料もおさめてあります。これによって、自
治体がどういことを議論してどういことを対応したの
かというのがわかるようになっていきます。

県災害対策本部会議
関係資料は全回分を見ることが出来ます



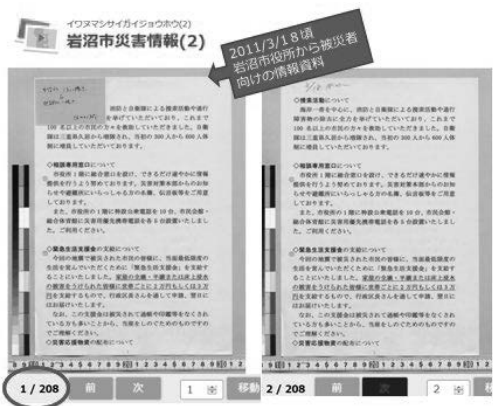
次の資料は、石巻市役所が記者クラブにボランティアセンター設置の情報を流したものです。パソコンを打つてい
る暇もない状況で、とにかく急ぐものは手書きで対応せざるを得なかった、それが伝わるものです。



2011/3/15に
石巻市役所から記者
クラブに提供された
ボランティアセン
ター設置のお知らせ

16

これは、仙台の南側にある岩沼市の避難者向けの災害対応情報です。被災者向けの相談窓口設置等の内容で、避難所に配られたものです。



2011/3/18頃
岩沼市役所から被災者
向けの情報資料

17

これは避難所の記録です。仙台の北東にある七ヶ浜町のものですが、もう発災当日から記録をつけていました。こういう記録も相当な数残っており、避難所ですということが起こって、どういうふうなことを工夫してやっていたかというのがわかります。これは、これからの何かあったときの対策、対応のためには非常に役に立つのだろうなと思います。

写真についてもいくつかご紹介します。



アクセルから北側



003_北郷七木(石承写真その1・手田橋南側(応急復旧前110312))



陸上自衛隊の救出活動



仙台空港

まず公開数の状況ですが、当初は三二万七〇〇〇件とお話ししましたが、現在公開されているのは約三二万件です。約一〇万件近く落ちていきます。これはなぜかというと、八万件ほどある団体からいただいておりますが、写真に出ている人たちのマスクングが十分でないかもしれないと

公開資料・アクセス・ダウンロードの状況

○公開数	
公開当初	約31.7万件
現状	約22.2万件
	権利関係・マスクング処理関係等で 保留・削除発生
○収集数	
公開当初	約41.9万件
現状	約43.0万件
○アクセス・ダウンロード	
アクセス	約26万件 (月平均としては約1.5万件程度)
ダウンロード	約1000件

25

続きまして、アクセス等の状況です。

いうことでデータを引き上げたことなどによるものです。マスキングの問題は難しいんです。マスキングというのは、普段からその人を見ている人が見ると、これは人を特定できる、マスキングが十分ではないとなるものも、知らない人が見ると全然特定できないレベルで大丈夫となる場合があります。したがって、マスキングはどのレベルでやるかなかなか難しい課題です。あとは、公開の了解をいただいていた資料について、いろいろな事情で公開を保留にして欲しいと要請があったものもあります。

収集数については、当初より増えており、約四三万件となっています。

アクセス数とダウンロード件数ですが、アクセス数は約二六万件です。大体月平均として一万五〇〇〇件程度のアクセス数はあります。実際ダウンロードしているのが一件ぐらいだろうというふうに捉えています。

実は、今、アーカイブはメンテナンスモードという利用者の皆さんからは見ることができない状態になっています。なぜかと申しますと、セキュリティの問題です。いろいろな案を踏まえ、県全体としてもセキュリティ対策のレベルを上げています。脆弱性等の情報があると基本的にはソフトのアップグレードで対応するのが一般的ですが、うちのアーカイブは市町村と協力してつくっているので市町村も管理できるようにカスタマイズしていることか

ら、脆弱性対応のバッチが出てもそれを私どものアーカイブのシステムに合うようにカスタマイズをし直さなければならぬということがあります、その作業でご覧いただけない状態になっております。

保有しているデータ数も多く、それから中には個人名とかプライバシーに関するいろいろな情報が入っていますから、セキュリティはきっちり守らなければなりません。まずは安全優先ということで利用する方々にはご不便をおかけしていますが、セキュリティを最優先に対応しています。

つくっただけでは意味がない

行政・学校・地域社会等で
利活用されることこそが大切

- 県内それぞれの地域で時間の経過とともに何が起り、何に困り、どう対応して生き抜いたかが残されている。
- 県内全域のデータであるからこそライフラインであったり、避難所であったり、食糧であったり・分野ごとの整理・活用により災害対策への価値は高いメタデータの精度・テーマによるパッケージ化などが課題
- 「東日本大震災文庫」等の収集資料と組み合わせての利活用
- 復興の歩みも残していく必要あり・継続的収集

このアーカイブはやはりつくっただけでは意味がありません。これをいかに使ってもらおうかというのが、すなわち利活用がこのアーカイブのこれからの価値になっていきます。

先ほどもお話したのですが、県内全体でどんなことが起こって、どんなことに困って、どういうふうにして生き抜いたのかという、そこがわかる資料なわけですから、それを活かしていくのはこのアーカイブの使命だと思っています。県全域のデータであるからこそわかることがあります。山沿いから海沿いまで全市町村のデータをいただいています。そうしますと、時間の経過とともにそれぞれの市町村で避難所のことだったり、交通のことだったり、いろいろなことが起こるわけです。それぞれの市町村はそれぞれの課題・問題に対応しなければならいけれども、全市町村のことを時間や事案で串刺しにすることによって共通に出てきている問題だったり、それが見えてきます。県全体、あるいはまとまったエリアの中で起きている共通の問題・課題、共通で対応できることだったり、これは県でやらなくちゃいけないよねとか、そういうったものが見えてきます。そういう意味で、この私どものデータというのは行政にとってものすごく利用価値があると思っています。

次に、課題についてお話しします。
ひとつは、メタデータの精度の問題です。一つの写真に

はメタデータといつてその資料に関する情報が入っています。検索で引っかけられるためにいろんな情報が入っています。例えば、避難所の写真があったとして、それが「避難所」だったり、「食事」だったり、「衣料品」だったり、それから「トイレ」とか、その写真に関する様々なキーワードが記載されています。ところが、同じような写真なのに関連づけられたキーワードが微妙に異なっていたり、本来は「避難所」で検索したら出てこなければならぬ写真が引つかからないといった問題が起きています。検索の精度は、アーカイブにとつて基本的で最も重要な事項です。これは、もう一回見直しをしながらしつかり解決すべき大きな課題だと思っています。

二つ目は、宮城県図書館ではこのデジタルデータのほかに、震災関連のいろんな資料を各都道府県等の自治体や団体、研究機関からも頂戴し、さらに関連する書籍も網羅的に購入し、東日本大震災文庫という形で整備しております。この紙ベースの資料との連携も大切だろうと思っています。
さらに、今でも復興というのは続いているわけです。その復興の歩みというものもきちんと継続してデータにして行く必要があると思っています。したがって、資料の収集・整備は、これからも継続していく必要があると感じております。

続いて、アーカイブの活用についてお話しさせていただきます。

活用計画		実施の促進	実施の状況
2016年度(平成28年度)	防災教育と連携 高校生・教職員等の参加型の活用プログラムや、テーマ別活用資料(パッケージ)の作成及び試行	防災教育と連携 防災教育と連携 防災教育と連携	防災教育と連携 防災教育と連携 防災教育と連携
2017年度(平成29年度)以降	地域における防災訓練での活用 各自治体の各種防災関連事業との連携・活用 企業や一般社会人参加型の活用プログラムや、テーマ別活用資料(パッケージ)を作成	防災教育と連携 防災教育と連携 防災教育と連携	防災教育と連携 防災教育と連携 防災教育と連携

まず、私どもが今年度から始めているのは防災教育の分野です。たまたま私どもは図書館なものですから教育委員会という組織の中にあります。宮城県の教育委員会は従来から防災教育に一生懸命取り組んで来た経緯もありました

ことから、まずは学校現場で活用してもらおうこととしました。県立の宮城県多賀城高校が平成二八年四月から災害科学科を新設しましたことから、連携してこのアーカイブを活かす仕組みなどを勉強させてもらってあります。平成二九年度以降になりますが、学校教育から始めて、地域だったり企業だったり、そういったところの方々と活用を一緒になってやっていくような仕組みづくりをしていくことと考えております。



これは、学校をベースにした利活用のイメージです。学校や市町村と一緒に becoming 取り組んでいこうということです。学校で何ができるかという結構ありまして、防災教育と構えなくても、小学校の国語だったり社会だったり美術だったり、あるいは中学校、高校で授業の中に溶け込ませていく方法があると思います。

☆校種別具体例案

小学校

- ◆国語◆
防災カルタ作り
防災標語作り
作文集 記録集作成
- ◆社会◆
避難場所地図作り
地域の歴史 地震)
- ◆美術◆
防災ポスター作り

中学校

- ◆理科◆
津波と地震を調べる
- ◆外国語◆
英語で防災カルタ作り
支援を頂いた国を調べて英語で発表する
- ◆総合的な学習の時間◆
キャリア教育
公務員の仕事を調べる)

高等学校

- ◆情報◆
データベースの利用
著作権について考える
- ◆保健体育◆
災害に備える
避難所運営を考える
災害弱者の防災
- ◆特別活動◆
被災地でのボランティア

☆この他にもこんなことに活用できます

PTA研修会等

- 家庭の防災講習会
- サバメ体験会
- 救命救急講習会

公民館 地域連携

- 公民館祭りでの写真展示
- 地区の防災訓練資料
- 避難所運営資料作り

幼稚園

- 避難訓練の事前指導
- 命の大切さを教える絵本
や紙芝居作り

「東日本大震災アーカイブ宮城」 利活用マニュアル

平成28年度「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」展示発表資料
平成28年11月24日 宮城県図書館

次に、利活用を促すために作成した事例を紹介します。まず、アーカイブの使い方マニュアルです。事例的に検索の方法というのを具体的にどういうふうにするかという内容になっています。これはホームページにアップして、皆さんがわかるようにしようと思っております。

「東日本大震災アーカイブ宮城」資料検索の方法

「東日本大震災アーカイブ宮城」

<https://kioku.library.pref.miyagi.jp/>

資料の検索の方法は4通り

- ①一般的なフリーワードで検索
- ②カテゴリー(資料の形態)別に検索
- ③詳細項目から検索
- ④各自治体ごとに検索



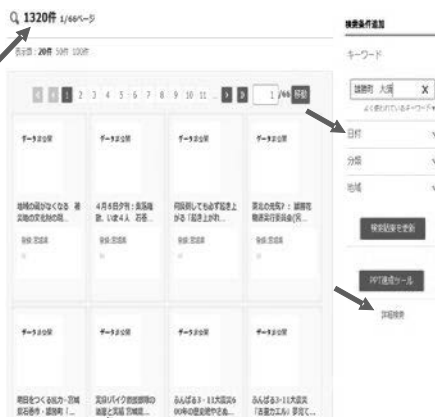
- 1 -

「一般的なフリーワードで検索」

入力した単語を含む全ての資料が表示されるため、沢山の資料を閲覧することが可能

無条件に該当する全ての資料を表示するため、詳細項目(※資料5ページ)を使う方が資料を特定しやすい

画面右横から
 ・日付、分類、地域を絞ることができる
 ・「詳細検索」ができる



「カテゴリーから検索」

「文書を検索」から検索をかけると、全ての文書の一覧が表示されるため、沢山の資料を閲覧することが可能

画面右横から

- ・日付、分類、地域を絞ることができる
- ・「詳細検索」ができる



「詳細項目から検索」 基本項目・資料種別を

【例：子どもに防災教育を行うために、知識として、地震の震度や震源の位置を知っておきたい場合】

調べたい資料にヒットしそうなワード・項目を入力

ダウンロード可能な資料のみと限定して検索

資料の形態を限定

基本項目

フリーワード

タイトル

作成者・編者

公開年・印刷年

作成日

得意番号

住所

電子文書有無
 あり なし

キーワード

イメージ検索に限定できるものの検索
 オンライントラックダウンロード可能なもの限定

資料種別から絞り込む

画像・映像・音声
 記事・雑誌 写真 地図・絵図 新聞
 資料

文書
 公文書・資料 会議録・会資料
 地図・地図帳

本・メディア・インターネット
 図書 楽譜 雑誌・新聞 ポスター
 デザイン オンライン資料

「詳細項目から検索」 地域を限定

地域についてはどちらから絞り込んでもよい

宮城県土地勘が無い方は地図から地域を絞り込むと便利

検索したい自治体が決まっている場合にはこちらをチェックする方が早くて正確



特定の資料をダウンロード

◎「ダウンロード」

資料は全て無料でダウンロードできる

※ダウンロードボタンが表示されない資料は閲覧のみでの利用

◎「PPT速成ツール」

PowerPointのシートとして生成することができる



検索時のポイント その1

【ポイント】

検索した資料にはいくつかのタグがつけられている

津波 地震 地震動 マグニチュード 震源過程 地殻変動 過去に発生した地震活動 津波の観測状況
沖合津波観測船からの観測で推定した津波波高値

資料・項目
閲覧数 57

◎キーワード検索

- ・複数の単語が入力可能
- ・絞り込みに便利
- ・タグから検索する

◎フリーワード検索

- ・1つの単語
- ・幅広く検索したい時に便利
- ・タグとタイトルから検索する



検索時のポイント その2

【ポイント】

資料によって、画面の下に

- ・同じ作成者の資料
 - ・同じ場所の資料
- が表示される

同じ作成者の資料



2011年3月14日

もっと見る

同じ場所の資料



2011年3月19日 2011年3月19日 2011年3月31日 2011年7月21日 2011年7月21日

もっと見る

検索結果に戻る

行政資料の活用 その1

【例：資料に掲載する画像として、石巻市の雄勝町や牡鹿地域の様子を使いたい場合】

「活用事例3」資料5ページ



石巻市のトップページから検索

→「土砂崩れ」で検索するが48件しかヒットしない
→資料に掲載したい画像がなかった

48件 1/31ページ

表示数: 20件 50件 100件



写真は提示せず、行政資料を活用して、土砂災害発生時の様子を伝える

震災前後の被害を比較する(複数の資料)

- ・フリーワードを「震災前」
- ・資料種別を「写真」
- ・登録自治体を「石巻市」
→検索すると56件ヒット

複数の資料を使い、震災の被害を比較することもできる



次に、小学校・中学校等でアーカイブを活用していただくために、テーマに沿ってパッケージ化した事例を紹介します。一つ目は、中学生向けの「地震によって起きる災害」、二つ目は、同じく中学生向けの「こんなときにどうする？地震の様子を見ながら考えよう」、三つ目は、小学生向けの「東日本大震災」の写真から分かることを話し合ってみよう！〜下校途中に地震が起こったらどうする？〜です。いずれも、アーカイブの写真等を利用して防災・災害時の対応を学んでもらう教材です。今後、このようなアーカイブの資料を生かした教材等のパッケージを提案し、利活用の促進につなげていくこととしております。

活用事例

1

地震によっておきる災害

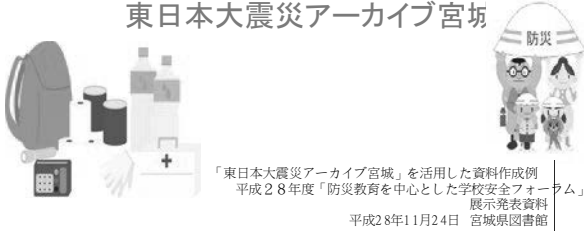
—東日本大震災から学ぶ、災害の連鎖—



「東日本大震災アーカイブ宮城」を活用した資料作成例
平成28年度「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」展示発表資料
平成28年11月24日 宮城県図書館

こんなとき、どうする？ 震災の様子を見ながら考えよう

東日本大震災アーカイブ宮城



ひがしにほんだいいんさいのしゃしん
『東日本大震災』の写真から

わ 分かることを話しあってみよう！
はな



とうげこうちゅう じしん お
～登下校中に地震が起こったらどうする？～



「東日本大震災アーカイブ宮城」を活用した資料作成例
平成28年度「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」
展示発表資料
平成28年11月24日 宮城県図書館

最後になります。この災害対策というのはなかなか難しく、よく想定外という言葉があります。しかしながら、災害はみな想定外です。予定したとおりの災害は来ません。それぞれの災害は、時間だったり場所だったり、いろんな条件でさまざまに異なってくるわけで、それにどういうふうに対応できるかは、日々の想定した訓練は必要ですが、その訓練からどういうふうに応用力をつけていくかということだと思います。そして、最終的には、自分の命を守ることがまず最優先です。三陸沿岸部には昔からことわざがあつて、「津波てんでんこ」と言います。「津波てんでんこ」というのは津波が来たら親子でも兄弟でも構わずに、とにかくみんなそれぞれ逃げなさいということです。「てんでんこ」というのはてんでんばらばらなんです。とにかく逃げろという意味なんですけれども、そういう言い伝えがあるように一人ひとりが自分の身を守る、そこをやっぱり徹底することが基本的な、大切なことなんだろうなと思っております。

本日は、非常に雑把なお話で恐縮ですが、以上で私の話を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

(了)

